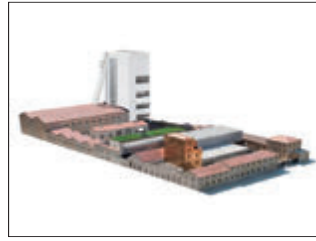




画像) www.fondazioneprada.org



画像) www.fondazioneprada.org



画像) http://oma.eu

発行日 平成29年4月1日
発行者
富山・ミラノデザイン交流倶楽部
高岡市オフィスパーク 5
公益社団法人富山県デザイン協会内
TEL.0766-63-7140

執筆 池田美雪
ミラノ在住デザイナー

プラダ財団(Fondazione Prada)

ミラノの新しい観光名所として日本でも広く紹介されている、イタリアのファッション・ブランドPradaが所有・運営するプラダ財団。ミラノ・エキスポが開催される直前の2015年5月9日に、財団の新しい本拠地として、ミラノの中心地から南方向に位置する再開発地域に複合アート施設がオープンした。

どういった主旨で財団が設立され今日に至ったのか、また、どのような展覧会が開催されているのか、今回のミラノ通信では、訪れるだけでは分かりえない財団の中味を探ってみたい。

現在、プラダ財団は3つのアート施設を運営している。

- 1つは、Largo Isarcoにオープンした、プラダ財団本拠地でもある複合アート施設「Fondazione Prada」。
- 2つ目は、2011年にオープンした、ヴェネチアのサンタ・クロチェ地区の「C'a Corner della Regina」。
- 3つ目は、昨年12月21日にオープンした、ガレリアにあるヴィジュアル系専門展示スペース「Milano Osservatorio」。

財団の主旨

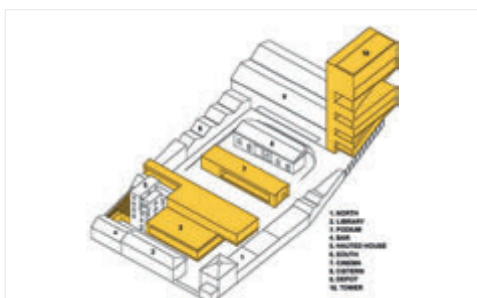
Fondazione Pradaがオープンするにあたり発表されたプレスリリースの”文化プロジェクト”の項目に、財団のコンセプトが詳しく説明されている。

「文化プロジェクト

20年前から今日に至るまで、継続的に発展している一連のプロジェクト、例えば、世界各国のアーティストと共同で行なう制作プロジェクトや現代哲学のカンファレンス、映画分野におけるリサーチのエキシビジョンなど、これらを実現させながら我々は常に今日の財団の意図と文化に携わる業務について自身に問いかけている。ミラノのプラダ財団の新拠点をオープンするにあたり、財団は、学習方法を拡張し、また、深めていくことができる新しい機会を提供したいと考える。

”文化施設は何の役に立つのか?”これは、我々がこの問いを通して社会に波紋を投げかけていきたいと考える基本的な問いである。文化は人々を巻き込み魅了することのできる、たいへん有用かつ必要なものであると確信している。文化は我々の日常を豊かにし、我々の内面そして世界で発生する様々な変化を理解する為の助けとなるべきである。この確信が、財団のこれからの将来の活動における基本である。

我々の主な興味は、アイデアに始まり、それを文学、映画、音楽、哲学、芸術、科学などの各分野に変換させた人類が生み出した手法である。



Fondazione Pradaの建物の構成を示すアクトノメトリック図。



画像) www.fondazioneprada.org
オープニングに合わせて開催された展覧会「Serial classic」。



画像) www.negoistoricilombardia.it
Prada GroupのCEO Patrizio Bertelli氏とMiuccia Prada夫人

新しいこの施設空間は、財団がこれまでに編纂してきた知識を拡散していこう。それぞれの分野は各々独立しているが総合的な目標は1つであり、学問の共存は互いの共鳴と、また、予期できぬ文化の交差を生み出すにちがいない。この開放的で他を誘う姿勢は、ミラノの新しい拠点のポリシーを特徴づけている。すべての世代が参加できることを主張したい。アイデアを共有する新しい方法を皆で共に探したい。教育プログラムを改めて定義する試みは、図書館のコンセプトの再考にも見られるだろう。映画フェスティバルとなることを避けながら、現代アート施設における映画に対してどのように取り組むことができるかを、我々自身にも問うていきたい。

プラダ財団は、作業のメインのツールとして、アートを選択した。自由な考えを基盤としたこの領域では、価値の定まった作品も、斬新なアプローチも受け入れることができる。

主に20世紀・21世紀のアート作品を含むプラダ・コレクションは、我々のもう一つのツールである。我々のコレクションを期待と力強いエネルギーと見なそう。新しい解釈を示唆し、彼らの中に未だ発見されていなかったアイデアを探するために、キュレーター、アーティスト、建築家、科学者、学生、思想家、作家などの異なった分野の専門家をここに招いていこう。

この知識の拡散についての我々の主張は、ミラノ・プラダ財団の空間構成にも反映されている。

複合アート施設の設計は、3つの新しい建築が、蒸留所として1910年に建てられた既存建築と組み合わされた集合建築のリノベーションの対象となった。複合アート施設は、市民に公共スペースを提供する開放性と内面性が交互に現れる中庭を伴っているが、工業跡地と新建築が組み合わされた施設として生まれたのではない。価値の高いバリエーションのある空間は、早急に自然発生的な方法によって、文化的な刺激に反応できるよう勇気をあたえてくれるだろう。

財団が新規に行なった制度整備では、改めて何かを生み出していくという使命を具体化している。開けた組織となったことで、会長をはじめ、芸術・科学評議員、プラダ財団のキュレーター部門、Thought Council、アートや科学分野のグループのメンバーたちの間で、自由にアイデアが交換される。多様な時間の区切りの中で、彼ら全員がアイデアやプロジェクトを練り上げていく作業に招かれるのである。彼らの一人一人が、他の多くの声と共に、現代性についての個人的なアイデアを財団の活動に寄与するだろう。」

Prada社の創業

Prada社は、ファッションデザイナーのMiuccia Prada(Prada GroupのCEO)の祖父にあたるMarioとその兄弟Martinoが、「Fratelli Prada (プラダ兄弟)」の名称で、ミラノの大聖堂のそばにあるガレリアの角地に、皮革製品・バッグ・旅行用小物を販売する店舗を1913年にオープンし、創業された。

彼らの創業目的は、Louis Vuittonのような旅行関係のバッグに限った専門店の創設ではなく、高級品を専門とするブティックを生み出すことにあった。その目的を果たすかのようにクオリティの高い彼らの製品は、イタリアのみならずヨーロッパの貴族階級とブルジョアたちから切望されるほどに名を轟かせ、創業6年にして、イタリア統一後の初の王室Savoia家の王室御用達品に指定された。

第1次世界大戦、第2次世界大戦の混乱を切り抜け、その間共同創業者のMartinoは事業から身を引き、1958年には、Marioの娘Luisaが父の跡を継いでオーナーとなった。そして、1977年にはLuisaの娘Maria Bianchi Prada(その後Miuccia Pradaと改名)も共に働き始め、翌年、母の引退に伴いオーナーとなる。Miucciaは大学で政治学を学び、また女性解放運動に参加しながら、新しい自分の世界を探すべく劇団活動に励んでいた。デ



商標) www.negoistoricilombardia.it
FRATELLI PRADAのブティックの看板は、今も発祥の地に残されている。店内では、当時の仕器が現在も使われ、面影を偲ぶことができる。



世界中で大反響を呼んだナイロン製のリュック。

ザインとは全く異なる世界にしながらこの世界に入ろうと思ったきっかけは、友達が制作していた子供服のデザイン作業に参加したことだという。

エキセントリックでクリエイティブな才能に恵まれているMiucciaだが、経営に対しては能力が及ばず、祖父の時代とは比較にならないほどの業績不振が続いた。この状況を打破するきっかけとなったのが、1978年、その数年後に彼女の夫となるPatrizio Bertelliとの出会いである。

Pellettieri d'Italia社のオーナーで、経営手腕に長けたBertelliと、才能豊かにファッション・デザインに専念するMiucciaは、良きパートナーとしてPradaの再建に取り組んだ。

その最初の成果は、Pradaのロゴを刻印した逆三角形のプレートがデザインの重要なポイントの、黒いナイロン生地の実用的でファッションブルなリュックであった。このデザインは、その後、コピー商品が世界中で出回るほどの大きな反響を呼んだ。

1988年には、Pradaのブランド名で第1回目のファッション・ショーをミラノとパリで開催する。その特異なデザインは当時のジャーナリズムから「石器時代の服」と酷評を受けるが、彼女がファッションに取り入れた新しい概念によって、ファッション・デザインにコンセプトチュアル・アートが取り入れられた。「自分が着たいと思う服がない」ことがきっかけでファッション・デザインを始めた、と自身が語っているように、ダイナミックで常に最高のものを求める彼女の気質もあいまって、その後のPradaは常に斬新で時代の先端を行くブランドとして成長していく。

1993年には、Miucciaの個人の思い入れの強いブランドMiuMiuが誕生し、同時にメンズ・ブランドもスタートする。1997年にはカジュアルなラインのPradaSportもスタートさせた。

共同経営者の夫Bertelliはヨットを趣味とし、Pradaは2000年よりAmerican's Cupに参戦を開始したレース用ヨットLuna Rossaのスポンサーとなり、同じ年に、ミラノの老舗パスティツェリア(洋菓子店)Marchesiを買収する。

プラダ財団の前身(PradaMilanoArte)

こうした企業の上向きで多角的な方向に向かう土壌の中で、1993年、MiucciaとBertelliは、コンテンポラリー・アートを制作する空間として、プラダ財団の前身であるPradaMilanoArteを設立した。

Miucciaがインタビューで語るところによれば、「アートは、自分自身の興味の対象となったことはない。私のカルチャーは、読書や映画、劇場、ダンスであって、ビジュアル・アートだったことはかつてない。だけど、例えば絵画を介して、人と人とが何かを交換するには、共同で何かを制作するのが最高の手段だということを見出した。自分自身がコレクターだと感じることはないけれど、アートをコレクションしていくことは、ある種の学習プロセスでもある。何かを一緒に行なう作業は、互いに知りあうことができ、また、良い結果を招くための素晴らしい方法。言うまでもなく、私は何かを行なうことが好きなのだが、自分自身を投入できる場所があるという意味で、とても幸せである。」

1993年、当時の財団の拠点の1つであったVia Maffei(ミラノ)の展示空間で行なわれた最初の展覧会は、イタリア人彫刻家Eliseo Mattiacci、続いて同じくイタリア人芸術家Nino Franchinaの回顧展、そしてアメリカ人彫刻家David Smithの回顧展であった。

1995年、財団の名称を現在の「FONDAZIONE PRADA」に変更し、同時に、包括する領域を伝統的な芸術から、写真、映画、デザイン、建築に広げ、オーガニゼーションの方向修正を行なった。この年に始められ現在まで続くプロジェクトSITE SPECIFICは、アーティストとの共同制作を行なうことを目的とし、財団が提供する空間内で、作品制作を行ない、その過程を鑑賞者に見せる形の展覧会である。

また、1997年には、興味の対象を都市の背景や文化に関わるプロジェクトにまで拡張し、アメリカ人パフォ



画像) www.prada.com
'88に行なわれた最初のファッション・ショーの画像は、下記リンクからご覧ください。
www.prada.com/it/collections/fashion-show/archive/woman-fw-1988.html

ーマンス・アーティストLaurie AndersonとSan Vittore刑務所(ミラノ)とのビデオ・アートによるコラボレーション、また、Santa Maria教会(ミラノ)内に、アメリカ人ミニマル・アーティストのDan Flavinの作品を永久インスタレーションとして制作するなど、社会の動向にも躍動的に応える活動へと向かっていった。

財団は、1993年の創設より2010年までに、世界各国のアーティスト24人の個展を企画・実現し、2005年と2009年には、ヴェネチア・ビエンナーレ開催期間中にプラダ財団として出展している。



画像) www.fondazioneprada.org

プラダ財団の前身であるPradaMilanoArteが、最初に開催した展覧会の様子。

左) イタリア人彫刻家Eliseo Mattiacciの展覧会 右) イタリア人芸術家Nino Franchinaの回顧展。



画像) www.fondazioneprada.org



画像) www.fondazioneprada.org

Santa Maria教会内部に制作された、Dan Flavinのネオン・インスタレーション。

プラダ財団・ミラノ

この複合アート施設の建設目的は「アートを広く一般に提供し、それを共有できるスペースの創出」であった。設計は、2001年よりN.Y.やL.A.のプラダ・エピセンターを手がけているオランダ人建築家Rem Koolhaasと彼が率いる設計事務所OMA(Office for Metropolitan Architecture)が携わった。建築から哲学、サブカルチャーの領域まで幅広くリサーチを行ないながら、都市と人間の関係を模索する建築家と財団の両者の社会に対するアプローチが共鳴したところに生まれたコラボレーションといえる。

現在でこそBottega Veneta社がオフィスを構えるなど開発が進む地域であるが、十数年前までは草が生い茂る旧貨物鉄道車庫脇の工場跡地であった。

設計は2008年に開始された。条件として、1910年に建造された旧ジン蒸留所を含む既存の建築物7棟(倉庫、研究所、発酵サイロなど)のリノベーションと、新建築3棟の建設(ミュージアム、マルチ・メディア・オーディトリウム、プラダ・コレクション作品を所蔵する10階建のタワー)、この2つのテーマが課せられた。Koolhaasは「このプロジェクトは単なる既存建築の保存でなく、また新建築の設計でもない。この2つが相互に影響を与えあい、それぞれの単体が生かされ、永遠に融合することのないインタラクティブな関係をもつ空間の創出である。」と語っている。

複合施設内では、現代アーティストのエキシビジョン、映画上映、子供のためのラボラトリーが定期的に行われている。その多くは、社会へ挑発的にメッセージを発信する、いわゆる通常考える「ファッション」と距離のある内容のものであるのが興味深い。このようなアートのカテゴリーの選択は、80年代に月並みなファッション概念に喝を入れたMiucciaの気概と、常に社会に疑問を投げかけ答えを模索する財団の主旨によるものに違いない。

この施設の中でシンボリックに存在するのが、外観を隅々まで金箔で覆われた旧ジン蒸留所のタワー「Haunted House」である。5階建てのこのタワーは、1階ごとのフロア面積は大きくないが大きな窓から太陽の光が差し込み、遠方には大聖堂の聖母マリア像が見える開放的な空間である。3階から5階の展示空間には、性、人間関係、自然、政治、宗教をテーマに活動を続けているアメリカ人彫刻家Robert Gober(1954 -)の作品がパーマネント・コレクションとして展示され、2階にはフランス人彫刻家Louise Bourgeois(1911 - 2010)のインスタレーションが2点展示されている。



画像) www.fondazioneprada.org

その外観をすべて金箔で覆われ、オーラを発する、旧ジン蒸留所の5階建タワー。

この複合アート施設の中で、唯一OMAが手がけなかったスペースがある。チケット売り場の正面に位置する「Bar Luce」である。アメリカ人映画監督Wes Andersonがデザインしたこの空間デザインのコンセプトは、プラダ発祥の地であるガレリアに並ぶ伝統的なカフェのリメイクであるが、50～60年代のネオリアリズムの時代のイタリア映画のアイコンが監督のテイストによって再現されている。天井にはガレリアのガラスのアーケードのミニチュアが施されていたり、本館のミニマルな空間に対し、色彩豊かにポップな装飾がなされ、とてもくつろげる空間に仕立てられている。ここでは、プラダが所有するパステリッチェリアMarchesiがパニーノやサラダなどの軽食を供している。

(営業時間 日曜日から木曜日まで9時から20時、金曜日・土曜日9時から21時まで、火曜日休業)



画像)Fondazione Prada
BAR LUCEの空間。落ち着いた照明に、レトロなモチーフの壁紙、木調のカウンター・デザインなど、クラシックなイタリアン・カフェをリメイクしている。



画像)Fondazione Prada
50、60年代に流行った娯楽フリッパーが置かれているコーナーと一人でもくつろげるテーブル付きソファ。



画像)Fondazione Prada
Fondazione Pradaのエントランス左側建物の2階にある、子供アカデミーの空間。ワークショップの様子は、下記リンクよりビデオをご覧ください。www.fondazioneprada.org/momenti

施設内には、財団が初めて子供を対象として企画・運営する文化プログラムACCADEMIA DEI BAMBINIがある。アート、映画、科学に関わる文化の提案を行ない、世代間の対話を促すスペースを創り出すことを目的としている。アカデミーの骨格の形成には、フランス国立ベルサイユ建築高等学校に在籍する学生グループが教授陣の指導の元で、原風景やシンボルといった基本要素を引用しながら、幼少期の想像力と創造力を刺激することを目的にコラボレーションに携わった。教育ラボラトリーのプロジェクトでは、マリオネットやロボットなど動く物体と子供自身の関係を体験させたり、写真、パステル、鏡、仮装などを使って、他と一緒にいることの喜びを体験しながら、セルフ・ポートレートやグループの画像を作り出すといった、「共感的な関係」をテーマにしたワークショップが行なわれている。各方面からそれぞれのテーマに沿った「先生」を招き、毎週末ワークショップが開催される。

現在開催されている展覧会は、SLIGHT AGITATION 2/4、EXTINCT IN THE WILD、KIENHOLZ: FIVE CAR STUDと常設展THOMAS DEMAND: PROCESSO GROTTESCO。

Cisterna棟で展示されているSLIGHT AGITATION 2/4は、スイス人アーティストPamela Rosenkranz (1979 -)によるSITE SPECIFICプロジェクトの一つ。2013年と2015年にビエンナーレに作品を発表し、MoMAの他5つのミュージアムにパーマネントコレクションとして作品が所蔵されているこのアーティストは、肉体的・生物学的なプロセスがアートにどのような影響を与えるかを模索する実験的な作品を作り続けている。SLIGHT AGITATIONとは「軽い興奮」を意味する。Cisterna棟の広い館内に置かれた砂の山は、猫のフェロモンから抽出された香りが浸されており、鑑賞者は、その香りに惹かれたり嫌悪感を感じたり、とそれぞれが生物学的な反応を示す。緑の光が天井部からこれらの砂を照らし、ゆっくりと香りを発する。(2017年5月14日まで開催)

Nord棟で展示されているEXTINCT IN THE WILD(自然からの絶滅)は、アメリカ人アーティストMichael Wang(1981 -)による、植物・動物の絶滅をテーマにしたインスタレーション。3つの大きなガラスショーケースに、すでに自然界から絶滅した動植物が人工的に生きながらえる様子を再現している。絶滅した動植物が自然界で生息していた様子を2014年から現在にかけて撮影した写真20点も展示されている。彼の展示コンセプトは、2014年、プラダ財団とカタール航空が協賛した国際コンペ“Curate Award”で、最優秀作品の1つに選ばれた。(2017年4月9日まで開催)

KIENHOLZ: FIVE CAR STUDは、アメリカ人アーティストEdward Kienholz(1927 - 1994)とNancy Red

din Kienholz(1943 -)が制作した彼らの代表作品の中から、キュレーターGermano Celantが厳選した作品を集めた展覧会である。Edward Kienholzにより1969年から1972年にかけて制作された作品”Five Car Stud”、人種差別から起こるバイオレンスのシーンを再現した実物大の作品は1972年にカッセル(ドイツ)で開催されたアート・ハプニング”documenta 5”に初めて出展されるやいなや物議を醸し出し、その後約40年間日本人のアート・コレクターの元で保存され、人目に触れることはなかった。2012年に修復され、ロサンゼルス County Museum of ArtとデンマークのLouisiana Museum of Modern Artで公開された後、プラダ財団の所有となった、アーティストの最高傑作と評される作品である。展覧会は、Sud棟からDeposito棟へ、そして中庭へと続き、彼らの彫刻作品など25点と合わせて、Five Car Studの制作に関する資料も展示されている。(2017年3月19日まで開催)

THOMAS DEMAND: PROCESSO GROTTESCOは、プラダ・シネマの地下に展示されている常設展。ドイツ人の写真家THOMAS DEMAND(1964 -)が、2006年から制作を開始した写真と、その制作過程を展示している。被写体の原型となるスペインのマヨルカ島にある洞窟は、30トンのグレー色の厚紙を90万枚の層に重ね合わせた立体から作り出され、その制作にはコンピューターによる精密な作業が大きな役割を担っている。芸術史では1500年代、挑発的で奇妙な洞窟のテーマがしばしば芸術に用いられ、「グロッタ=洞窟」は、グロテスクの語源となるほど人々を魅了してきた。展示空間では、写真作品の制作工程を、マヨルカ島の絵葉書やそれに関する本や観光ガイドなどの多くの資料によって公開し、1つの作品ができるまでの時間の経過やリサーチについて鑑賞者が理解を深めることができる。

Fondazione Prada 開館時間

日曜日・月曜日・水曜日・木曜日 10時から19時

金曜日・土曜日 10時から20時

火曜日休館

入館料 大人10ユーロ (入館後7日以内であればMilano Osservatorioと共通チケットとして使用可能)



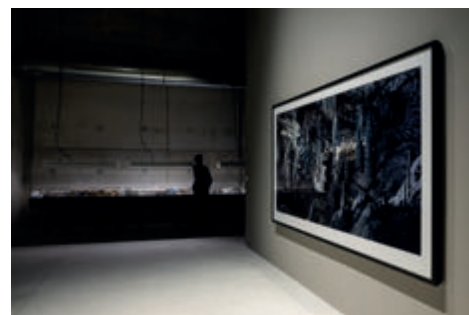
画像) Fondazione Prada

Cisterna棟で展示されているSLIGHT AGITATION 2/4を中庭から見た風景。



画像) Fondazione Prada

Nord棟で展示されているEXTINCT IN THE WILDの展示の様子。ガラスのショーケースの中で自然界で絶滅した動植物が人工的に生きながらえる。



画像) Fondazione Prada

THOMAS DEMAND: PROCESSO GROTTESCOは、プラダ・シネマの地下に展示されている常設展。

プラダ財団・ヴェネチア

2011年にオープンした、ヴェネチアのSanta Croce地区にあるプラダ財団のヴェネチアの拠点「C'a Corner della Regina」は、展示作品のみならず、建物自体も芸術作品といえる。運河に面したこの歴史的建造物は、後にキプロス島の王女となるCaterina Cornaroが生誕した1454年に建てられた建造物の跡に、時のヴェネチアの名家Corner家によって1728年に建てられた。現在でも、Corner家の祖先にあたるこの王女にまつわるエピソードを、2階のフレスコ画に見ることができる。

1800年、建物はローマ法王ピオ7世の所有となり、1817年にはキリスト教Cavanis派の集会所となる。その後、1969年までMonte di Pietà(キリスト教関係機関)が使用し、1975年から2010年まで、ASAC(ヴェネチア・ビエンナーレの現代アートの歴史資料保管所)が所有する。2011年よりプラダ財団のヴェネチアの拠点となり、修復を続ける中でこれまでに5つの展覧会が開催された。

プラダ財団・ミラノ展望台

Milano Osservatorioは、ガレリアに昨年オープンした、写真とヴィジュアル・アートを対象とした展示スペースである。建物の5階と6階に位置し、その高さはガレリアのガラスと鉄で構成されたアーケードを超える。第二次世界大戦中の1943年に爆撃によって損傷を受けた建物の修復が行なわれ、2フロアーをあわせて800平米におよぶスペースの使用が可能となった。

このスペースは、現代写真の傾向と表現方法、また、メディアのたゆまない発展とそれらがどのように他の創造領域と結びつくかを探りだし検証する場所である。

写真がデジタル・コミュニケーションのグローバルな流れの一部と成している歴史的なこの瞬間に、プラダ財団は、Osservatorioの活動を通して、今の写真の制作の在り方と、それらの受け止められ方について、文化的に社会的に何を暗示しているのかを問いたず、という。

第1回目の写真展、“Give Me Yesterday”では、2000年から現在に至るまでに、イタリア国内外で活動する1974年から95年に生まれた14人のアーティストが制作した作品を展示している。これらの若い世代の作品から、彼らが写真による日記を、日々の出来事や個人的な習慣を公に見せる媒介に変換したことがわかる。(2017年3月12日まで開催)



画像) www.fondazioneprada.org



画像) www.fondazioneprada.org



画像) www.fondazioneprada.org

Milano Osservatorioで開催されている写真展「GIVE ME YESTERDAY」のポスターと、展示風景。

2011年にオープンした、プラダ財団のヴェネチアの拠点、C'a Corner della Reginaのファサード。

Milano Osservatorio 開館時間

月曜日から金曜日まで 14時から20時 土曜日・日曜日 10時から20時

入館料 大人10ユーロ（入館後7日以内であればFondazione Pradaと共通チケットとして使用可能）

執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒

1994年よりミラノ在住

主に個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わる

設計外に携わったプロジェクトとして

”do it jubunde”展（無印良品、ニコレッタ・ブランズィとのコラボレーション）を企画ならび実現

”Soundesign”展（Marangoniファッションスクール主催）にて弦楽器”Caravantar”を発表

写真雑誌”ZOOM”日本版のコーディネイト、翻訳 など

”TuPlay”展にてグラス楽器”FASOLA”を発表

「Bicarbonato : mille usi per te e la tua casa」執筆（FAG出版社より）

（イタリアの生活に密着した重曹の活用方法を書き綴った本）

”B.A.C.”展（City Art ギャラリー）にて、インスタレーション”Ma.Ma.Ma” を発表

”Made in Bovisa”（Bodio小学校の子供たちとのプロジェクト）を起案、コーディネイト

第21回ミラノ・トリエンナーレ国際博覧会エキシビジョン”W.Women in Italian Design”に作品出展

クリエイティブ・コンサルティング会社（デジタルゲーム、ウェブサイト、グラフィックデザイン）の共同経営者として活動

デザイン・アートに関するコーディネイト、翻訳および通訳

日本とイタリアの文化交流を推進するデザイン・プロジェクト”stu-art”コーディネイター